

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



子牛ハッチでのハエ対策

暖かい季節になるとハエが大量発生します。牛にとってハエは病原体伝播のリスクやストレスになり、農場で働く人にも作業衛生上のストレス、衛生意識の低下につながります。今回はハエ対策のポイントと牛ハッチ、調乳室でのハエ対策事例についてご紹介します。

●ハエ対策のポイント

肉用子牛のハッチや調乳室で発生が多く見られるのはイエバエですが、イエバエの発生サイクル(卵が羽化して成虫になるまで)は2週間程度と考えられています。また、夏場などで外部気温が高くなるとそのサイクルは更に短くなります。

農場で目に留まるのは成虫ですが、その対策には幼虫の発生を防ぐほうが効果的な場合が多いです。幼虫の発育条件としては、適度な水分と養分(有機物が多く、じめじめした場所)と日陰(草むらなど)が必要です。これらの要素が揃った場所が農場での対策ポイントとなります。

●農場での対策事例

ハエが大量発生した子牛育成農場での対策事例を紹介します。農場では夏場の子牛ハッチと調乳室でのハエの発生が顕著でした。ハッチでは敷料のオガ粉等が外に溢れ、そこにバケツからこぼれた水や飼料が混ざっているような状況で、ここがハエの主な発生源と考えられました(写真1、2)。

調乳室にはハエの発生源となる場所は見られなかったことから、ハッチ

で発生した成虫が入り込んでいると考えられました。

対策はハエの発生が始まる梅雨前から始めました。ハッチではハッチ外に溢れた敷料を定期的(2週間隔以内)に取り除いた後に、ハエ幼虫発育制御剤を散布するようにしました。調乳室では成虫対策として専用トレイにネオニコチノイド剤(接触したハエの神経興奮伝達を遮断して麻痺死亡させる殺虫剤)を乳酸菌飲料等に混ぜて嗜好性を高め、これを散布しました。

対策の効果は良好で、対策前の年と比べて同時期のハエの発生を大きく減らす事ができました(写真3)。ハエ対策は発生時期の前から行う事、また作業スケジュールに入れて定期的に行う事が重要です。

特にハエの発生しやすい場所は病原体も増えやすい場所ですので、普段から定期的な掃除も重要です。

なお、ハエ対策製剤の中には牛や人体に有害なものもありますので、取り扱いには十分にご注意ください。



ハッチで大量発生したハエ



ハッチから溢れた敷料にはバケツからこぼれた飼料や水が混ざっており、幼虫の発育に好条件な状況



対策後のハッチ